

協立病院の理念

人権と人格を尊重した、
こころとからだの総合診
療とケアを実践する

協立病院だより

No.87 2022年7・8月号
発行：みさと協立病院

〒341-0016 埼玉県三郷市田中新田273-1
TEL 048 (959) 1811 /FAX 048 (959) 1819
<http://www.tokyo-kinikai.com/misato/>

戦争で失われた人の命は2度と戻ってこない

1日も早く平和な世の中へ



平和ポスター作成風景

みさと協立病院 まちづくり地域活動委員会
榎本俊介

2022年2月末にロシアは一方的にウクライナの東部地域にロシア軍を侵入させ首都キエフを含むウクライナ各地への攻撃を始めました。これはウクライナの主権と領土を侵す、国連憲章、国際法に反した侵略行為です。またウクライナを支援する国際社会に対し、プーチン大統領は核兵器の使用を示唆する発言で威嚇をおこないました。これらの世界の平和と秩序を脅かす

暴挙は決して許さるものではありません。現在でもウクライナでは民間人を含毎日数百名の命が争によって失われています。このよう悲惨な戦争が1日早く終わるよう願を込めて、まちづくり地域活動委員会平和ポスターを作りました。

6月のまちづくり地域活動委員会で、ロシアのウクライナ軍事侵攻の背景と、ソビエト連邦當

壊やNATOについての情勢を学んだ後に、今回のウクライナ侵略についてどのように思うか、参加者全員でディスカッションをおこないました。

が起きると日本の防衛費を増やさなければ日本を守れないという声が強まつていく。防衛費を増やすために医療費が削減されてしまうようなことが起こるかもしれない。兵器にお金を使うより、平和な環境で国民の健康のためにお金を使うべきではないか。」

起こつてしまふのを
信じられない。多くの
兵士や民間人が死んでしまつてい
が、指導者は安全な場所にいる。戦争を
ても何も良いことがないのになぜ戦争を
始めるのか。」
ディスカッションでは多くの発言があり、それぞれに参加者は共感していまし
た。

A black and white photograph of a group of approximately ten people, mostly young adults, standing indoors. They are all wearing white surgical-style face masks. In the center, a man holds up a large protest poster. The poster features Japanese text at the top reading "人の命は戻ってこない" (Lives cannot be returned) and "Stop War in Ukraine" in English. Below this, there are several small photographs showing scenes of conflict and destruction, likely from the war in Ukraine. The background shows a room with doors and some equipment, suggesting a hospital or medical facility.

デイスカツシヨンの後に、1日も早く戦争が終わるよう思いいを込めて、平和ポスターを作成しました。ひとりひとりが平和を願つて、メッセージをポスターに張つていきました。

平和ポスター作り

メツヤージーの一部

- ・1日も早く平和な世の中へ
 - ・戦争の犠牲者は国民です
 - ・人間同士の殺し合いはやめろ
 - ・人の命は戻ってこない
 - ・憲法9条を守ろう
 - ・戦争してもいいことはひとつもない
 - ・遠い世界の話ではない
 - ・プーチン大統領、過ちでは改まるに憚ることなかれ



平和ポスターに命を吹き込む事務長

の最大の被害者は性、子供、障害者老人などの常に一市民である点で戦は最大で最悪のS H (Social Determinants of Health) 健康の社会的決定因) だ。戦争を正当にしながり何も行動せず放置を

女般争D：の要は、今、自分は何をするべきなのか、この言葉が指し示してくられた気がしました。

平和ボスターを作成しながら、みんなさんの意見を聞いていたときに、私は今年の3月に定年を迎えた大野義一朗先生の「戦争は最大で最悪のSDHだ！」という言葉を思い出しました。大野先生は「人命を傷つけ奪うことを目標としている点で、また戦争が現実に起こってし

患者を放置することと同様、医療人である自らの存在意義を否定することにつながる。」と訴えていました。これは2015年に安全保障関連法案に対して強く抗議した大野先生が発した言葉です。7年目の月日が流れ戦争



平和ポスター 集合写真

